				点数 各項目20点	滿点				書評	
	投稿者 アリアの流星群 アリアの流星群	秋霖	評価者 一般審査員A 一般審査員B	怖さ 20	鋭さ 20	新しさ 19 14	ユーモアさ 19	意外さ 17 13	合計 95 まず、やいって 長近ない もどか 65 死を近	書評 通りゃんせ自体が怖いから。この曲使うのはほとんど反則だって。それに加えばい女を表現するときの「一目で良くないモノだとわかる」っていう表現! 怖。幻想的な雰囲気にもマッチしてるし・・・・なんというか雰囲気が怖かった。雨の日が多いのも余計怖いんだって。もうやめてよー。最後ちょっといい話っってるのも好感度高い。あ一っもう! この恐怖を上手く表現できない自分がしいっ! まじで、ホントに、今までの中で一番怖かった。鳥肌が止まらない。 〈に感じている人を引き込む魔物の話はリアルでもありそうですね。悪いもの
509	アリアの流星群	秋霖	一般審査員C	18	17	17	17	17	に自分 86 題名が いるこ 亡くなで 悲しくて クター た謎、	てるものに近づくのは自然の摂理みたいなもんなので仕方ないんですが現実が引き込まれたら怖いと思いました。 美しいですね。でも、この美しい言葉が持つ意味が恐怖を導くことにギャップ、怖さが引き立ちます。秋の雨ととおりゃんせ、この二つがキーワードになってとがとてもわかりやすくて良いと思いました。また、ただ恐ろしいだけではなく、ってしまった彼女が異世界の境界線の向こうで主人公を死へと導く情景が物で情緒があり良かったです。坂本さん存在も非常に重要で、それぞれのキャラの役割がしっかりと設定されているのが素晴らしいと思いました。最後に残っ神社で主人公を現実世界へ戻そうとした老人、誰だったのでしょうか。とても
	アリアの流星群アリアの流星群	秋霖	一般審査員D	17	18	16	18	16	85 タイトリ ギャッ・ も感じ 人をとた。 しっとり まり、E	ります。この余韻も作者の計算だとしたら、秀逸な作品だと思います。 レがとても綺麗だったのでどんな話かと期待していましたが、異世界もので プに少々驚きました。異世界に踏み込むきっかけが切ない。少々ノスタルジー させる流れが良かったです。人の心につけこむ怪しい存在は引きずり込んだ うしたいんでしょうか。坂本さんの過去も気になります。この先も気になる作品 とした怖さと切なさが同居する印象的な作品でした。静かな雨の情景から始 日常の中にじわじわと異界が滲んでくる感覚がとても上手いです。特に「通りゃ の場面は、日本的な怖さと懐かしさがうまく混ざっていて、読んでいて背筋が
509	アリアの流星群	秋霖	一般審査員F	17	17	16	16	16	同時に く人間に うかした。 知いた。 和れど、請 別りが、 間切りが、 に対か	知らずのうちに異世界へと迷い込む。そんな体験談は最近、結構耳にするけ自分が体験するのはやはり怖い気がする。必ず帰って来られるなら、それも体験としてはアリなのかもしれないけれど、保障がないなら無理だ。自分のら突然人の気配が消えたり、音がしなくなるというのは異世界に行った時の共
509	アリアの流星群	秋霖	一般審査員G	12	16	13	17	14	うのは ディー、 か。まない かった 思うと す としまうか	のだろうか。そういう話もよく聞く。踏み切りがこの世とあの世の境界線とい 興味深い。異世界に入り込むきっかけが、雨の日と "とうりゃんせ"のメロ だというのも面白い。雨や霧の濃い日に異世界に迷い込み易くなるのだろう 本さんのようなお巡りさんや神社の前の老人のようにあの世の世界へ入り込 ように助けてくれる存在がいてくれたから主さんは助かったけれど、もしいな らきっと境界を越え、主さんも行方不明者になってしまっていたんだろうな、と 布いです。 「怪談で終わりかと思いきや、切ないお話でした。坂本さんは一体何者なんで い?何故彼だけはこの世界と異世界を行き来して人助けまで出来てしまうの 業度が終わりかと思いきせ、なったもなりませ、
509	アリアの流星群	秋霖	一般審査員H	18	17	15	13	15	にたが かっま う感情 は向い 謎が多 いてい 78 怖さ、 [*]	義感が強い=意志の強さによってその使命を担わされているのか、本当に死っているだけなのか。そして呼び戻す老人は誰なのか。不可思議なことが多ので都市伝説みたいなものを感じました。どちらかというと怖さより切ないといのほうが入りやすいので、より怖さにフォーカスしたほうが今回のコンテストにいたかもしれません。また、明言されすぎていないことも必要なのですが、すぎても散らかってしまうので、呼び戻す役割はお爺さんか坂本さんのどちらで良かったかもしれません。もっとなにかありそうなお話なので、意図して描ない部分に何があるのか気になります。 *** ** ** ** ** ** ** ** **
									謎かのを のあが世界 のにしい にたい です。、 です。、 でも、	:人、不気味な女、警察官は本当に生きた人間なのか?味方なのか?はたま老人は?など、怖さ盛り沢山でした。鋭さ、主人公の心理描写と情景を描く様とスがとても良いです。怪異を描く切り口に鋭さを感じます。新しさ、主人公が出こ人り込んでしまった理由、でしょうか。終盤の種明かしもタイミングが良い同だそれ?とならずに良いですね。また、警察官が実は、、というよくある展開かった点にも新しいですね。ユーモアさ、ちょっと、女のキャラクターが笑このリー展開の中で「いかにも」な登場の仕方で笑っちゃいました。いい意味でベタ意外さ、中盤あたりから、これは嫌怖な展開かな~と思っていたのですが、皮女は死んでしまっているので、ハッピーエンドとは言えませんが、主人公まで行かれなくてホッとしました。
509	アリアの流星群	秋霖	一般審査員	15	10	5	5	5	40 一回 た。 人は心 そんなな 認知か り 坂本さ ところっ	読んであーっと思ってもう一度読んで伏線に注意しながら更にまた読みましいに悲しみを抱きながらも生きていかねばなりません。 気持ちに付け込むモノが居るならば確実によくないです。 が歪んでいます。 一苦しみに屈してはいけない。 んとお爺さんのお陰で拾った命を大切にして欲しいです。 で島田さんのチャンネルで聞いたお話で話者は失念してしまいましたが
509	アリアの流星群	秋霖	一般審査員J	16	17	18	12	15	河原に 大河が 無性に グさて 一見調 不思 郡 78 彼の岸	ラカードを手に持ちながら戻れって言ってくると言う話をされていました。 はないピアニストの方が何故出てこられたのでしょうね。 です。 と常世の境目で、三途の川のような位置づけを踏切だったような面白い話
No 506	投稿者かめ	タイトルおのぼりさん	合計 評価者 一般審査員A	157 怖さ 18	156 鋭さ 18	145 新しさ 18	143 ユーモアさ 17	140 意外さ 16	ストー! 741 合計 87 今まで 雰囲気 ないが	のようなものもそのようになっているのかなと思わせる非常に興味深く面白い リーだった 書評 にありそうでなかった、新しく鋭い切り口。「邪神モノ」とはまた違う、不思議な にに包まれた作品。そもそも海には入れない、という真相に意外性はそこまで 、結構面白い。話自体はそんなに難しくなく、結局おのぼりさんがなんなのか んとなくわかったような、わからないような、その曖昧さの加減もちょうどよい。
	かめ	おのぼりさん	一般審査員B	13	12	12	10	11	無いない また	ものなのか、生物なのかはわからないが、深海は神秘だから、変なものがいかしくない! 村の海の奇妙な怪談はよく聞きますが怪物が魚の頭を取ったものを売って立ててる話しは聞いた事ないですね。自分も襲われるリスクを負ってでも、そフシを取るしか村にお金を得る手段がないのか、狂気に満ちた村の話でして、気持ちが悪い、と言いたいです。ここまで徹底して気持ちの悪い設現ができるとは・・・作者の方の技量を見た気がしました。小さな糸みみずのものが大きく育ち、イルカの頭さえ握り潰せるようになるとは、想像力・創造力
506	かめ	おのぼりさん	一般審査員D	18	17	18	19	18	持って の指の にった ディック 90 全体的 外は海 とてもか も良か	iらしすぎます。また、それが「人間のが指で」するように、と言うところに、人のいる残酷さや身勝手さを思い起こさせられました。頭のないイワシ・・・中くらいいようなものが、イワシの頭を潰しているんでしょうか。しかも、ただ楽しむたとめカルトと人怖の融合。この融合作品が多い昨今ですが、このかたのオカルクな設定は独特で、他の人には真似ができないものだと思いました。からに出の話が多い中、海にまつわる怪談が出てきてわくわくしました。お盆以出に入ってはいけない、という習わしが新鮮でした。禁忌を犯した体験者の話も布くて良かったです。謎の部分と見聞きした情報のパランスが良い構成でとてったです。名前の由来もシンプルで存在の不気味さと乖離があるところがより感じられてよかったです。
	かめ	おのぼりさん	一般審査員E	13	13	12	15	12	と思い いて、 まりま・ だけで 終盤の にしっ られる	「承の怖さと現代的なリアリティがうまく混ざった、とても完成度の高い怪談だました。お盆以外は海に入れない――という掟が物語の入り口として効いて読み進めるうちに村の中に潜む"何か"の気配がじわじわと迫ってくる感じがたせん。イルカの死骸や「手の下に潜り込むもの」の描写もリアルで、想像するゾッとしました。 「丸干しの頭が取ってある」で一気にすべてがつながる展開も見事で、読後かり余韻が残ります。怖いだけじゃなく、"土地に根づいた記憶や信仰"が感じ深みのある作品でした。 て興味深い、だけど、しっかり怖いお話でした。まず、お盆にだけ海に入って良
			一般審査員F						い、お まな ワシが 習り と ズ ル ル カ	盆以外は絶対に海に入ってはいけない村、というところで新しく意外性があり。九州の端の海に面した小さな集落に伝わる伝承、そして **おのぼりさん、の物体。おのぼりさんはお盆の時期に現れ、それらが消えた後には大量のイ漁れ、村が潤う。表面的には **おのぼりさん。は村の守り神とは言われてい村人には危害を加えない、と言われているのに、実際には体を喰われ海に引込まれて亡くなった者がいたり、体に無数の小さな孔を空けられ、傷跡がずっている村人がいたりする。主さんが考えるように、その村の海には常にイトミミうな謎の生物がいて、それらは海に入った者を遅い、中でも巨大化したモノはや鯨の頭を潰しているのかもしれない。それを想像すると怖いですね。
506	かめ	おのぼりさん	一般審査員G	20	18	17	18	17	ね。今 れだけ ちょっし たいで くそれ。 ね。そ・ の明る た男性	モンスターホラーのいいとこ取りという感じのお話でした。バランスがいいです回の中では一番怖さポイントが高いです。得体のしれない巨大な存在ってそで怖いのに、元々は海の中の小さな寄生虫というのがまた気持ち悪い。 ・クトゥルフ神話みたいなものも感じました。こんなシナリオがあったらやってみす。体内に入って痛め付けるだけ痛めつけて食い荒らしていく寄生虫と、恐らを食べてきたイワシ、本当にこのイワシは食べて平気なの?と思っちゃいますもそも何故この村にしかこの現象は起きていないのかも気になります。主人公い軽さと、村人の何も気にしていないような感じに対して、恐ろしさを感じていが現実的な恐怖を煽っていて良いアクセントになっていたと思います。登場明るさ、暗さの緩急がつけられていて良かったと思います。
	かめ	おのぼりさん	一般審査員H	12	14	13	8	10	か?とえ 漁村の 新しく! ユーマン れなかと のかと わり方	まるで通奏低音のような不気味さが終始漂い、雰囲気はあるのですが、怖い言われるとさほどではありませんでした。「おのぼりさん」の実体の一遍でも垣れば良かったかな、と言う気がします。鋭さ、淡々とじわじわと主人公に迫る謎。その描写に鋭さを感じます。新しさ、田舎町で怪異に会う、それ自体は目はありませんが、その正体を明かさないままに結末まで書き切った点です。ア、正直私にはユーモアは感じられませんでした。もっと村人達の得体の知の様なものがあると良いのですが。意外さ、主人公も少なからず被害に遭う思いきや、目撃しただけで終わるという。拍子抜けしました。まあ、胸くそな終より遥かに良いのですが、
506	かめ	おのぼりさん	一般審査員	15	5	5	5	10	食べ過 怖い子 報酬 す知。 知 知 い 好 が が が が が が の の の の の の の の の の の の の	はこんな村早く出たいって思うわそりゃ。 良いからって運送を続けていると様々なことを知ってしまって村に監禁されまこれ。 いことが武器になる。クリストファー・ノーラン監督のテネットでも言われているす。 しはネコを殺す。
506		おのぼりさん	一般審査員J合計	15 159	144	16 144 *** 1 **	139	15 144 音風士	でもそ しかした 大概し 気を付 72 気味が 結局、 730	うやって自ら危険に飛び込まなければ得られないものも多いわけです。 ながら成功体験とは生き残った人からしか聞けないわけです。 くじりますので他人に話なんか出来ません。 けましょう。 「悪いが、村にある興味深い風習と思った 何なのかが全くわからないという物語にしているところも良かったと思う
513	投稿者 地域猫 地域猫	タイトル セニエ/エデル セニエ/エデル	評価者 一般審査員A 一般審査員B	怖さ 19	鋭さ 20 12	新しさ 19 14	ユーモアさ 17 13	意外さ 20 15	あって 思って し、なん 当にい うのは 67 甲冑の た。面	書評 誤解の物語。本当に悲しかった。途中、甲冑に対して怒りがわいていただけ、結末には本当にびつくりした。構成は満点に近いだろう。お互いよかれとやったことが、結果的によくないことになってしまった。最初は、こんな話多いいでまらないなーと思いながら読んでいたのだが、それもあって、最後は本い意味で驚いた。本当に悲しい結末なのに、全員に感情移入できる怪談といめずらしいと思う。)霊の話ですが話の流れといい構成といい最後のオチまでよく出来た話でし白かった。伏線や作中の補足など素晴らしかったです。
513	地域猫	セニエ/エデル	一般審査員C	17	17	18	15	17	84 外国語の 初の初恋追っ感でいる かった。 からしている おものでいる おものでいる おものと からない。 からなる からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 とった。 からない。 とった。 からない。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった	日かった。伏線や作中の補足など素晴らしかったです。 と日本語、それぞれが持つ意味のギャップをうまく利用したお話ですね。作者 語学への造詣の深さを感じました。文章も登場人物も全体的に穏やかで、最 最後まで落ち着いて読むことができました。少女と医師の関係については、 関係という設定は要らなかったように思います。少女が死んだ後に医師が後を エデンスとして用意した設定かもしれませんが、患者が自死したことに責任 て、程度でも良いかと思います。この二人のお話に占める割合は多くはない 高尚な面が多々見られるので、読み手を選ぶかな、と思いました。私は恥ずがら少し読みづらかったです。この作者のキャラクター作り、物語の構成力を と、この字数では収まりきらないのかな、と感じました。ぜひもっと長文の作品 出してほしいです。
	地域猫地域猫	セニエ/エデル	一般審査員D	16	14	17	18	17	を生み 82 美術館 議様のの申 でするい。 でで だった。 72 何が良	出してほしいです。 常に展示されている物はそれぞれの時代の人の想いが宿っているので、不思が起きたり内容によっては「呪物」と呼ばれるものになっていると聞きます。これに悪意はなかったけれど、不幸な結果を招いてしまったのがとても悲しいで後、懺悔の言葉で「依頼」という言葉を選ぶでしょうか…記録として読んでくだと始まりこの言葉で締めるつながりがあまり感じられませんでした。大きな病院科の入院患者が簡単にメスや刃物を手に入れられる環境にあるところがリアがなさすぎて冷めてしまい、内容はとても良かったので勿体ない感じがしましかったかというと、甲冑の男が人を助けようとしていたという、予想外の展開
	地域猫	セニエ/エデル	一般審査員日	12	14	15	15	16	です。」 いたと に、これ 彼の行 解の連 86 コミュニ なくてう だくろう! ろうし、	かったかというと、甲冑の男が人を助けようとしていたという、予想外の展開 最初はただの悪霊のように見えていた存在が、実は誰かを守るために動いて 知ったときの驚きと感動は大きく、物語全体の印象を一気に変えました。さら 56の勘違いや手違いで、甲冑の男を一時的に消滅させてしまった切なさや、 動に騎士道の精神を感じられる点も心に残りました。この予想外の善意と誤 鎖が、物語に深みと余韻を与えていたと思います。 -ケーションの難しさ、言葉の壁を深く考えさせられるお話でした。言葉が通じ たボディランゲージで何とかなる、と言う人もいますが、それはそういう事もある けれど、深刻な話や重い話に限っては、正確に伝えるのはなかなか難しいだ やはりそこに大きな壁を感じる人は少なくはないと思う。日本語は特に複雑 特のニュアンスを持つ事も多いから、外国語に翻訳する場合もきっとびったり
513	地域猫	セニエ/エデル	一般審査員G	9	10	18	15	15	くる表 まって 願った る意図 のだ。 67 怪談と よって に出る	見がなくて難しいだろうな、と感じる場面はよくある。だから、半端に通じてしいる事も実際結構あるんだろうな、と思う。Kさんが、A君の為に甲冑の霊にのは、エデル一彼を助けて一だったから、霊としてはその願いに応え、瀉血すでA君の手首を切った。彼は約束を破った訳ではなく、Kさんの願いを叶えたそれなのに、消滅させてしまった。何とも悲しい結末ですね。いうより悲劇的なお話で、誰も救われない無力感が強く出ている、読む人には結構引き摺られるお話だなと思いました。よかれと思ってやったことが裏目ことは生きてるうちには度々ありますが、その裏目がかなり良くない方向に出
513	地域猫	セニエ/エデル	一般審査員H	12	10	13	8	10	ニック? いですが ですが ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	った。登場人物の誰も悪くないのに、最悪の方向に行ってしまうというのはテクを感じました。良かれと思って、をお話の中で意図して作れるのは本当にすご。 怖きというより、後悔ややるせなさが残るお話なので、怖さの加点は少ない、文章のテクニックは優れていると思います。 5 一ん。怖いというより切ない、悲しいと言う印象。甲冑の男にもっと恐ろしさが所です。鋭さ、主人公と怪異の元となる男とのやり取りなどが何かノスタルで鋭さは感じられません。甲冑の男とのやり取りはもう少し後でも良かった気ず。新しさ、物に愚いた何者か、の描き方は確かに着眼点としては新しいと感。ユーモアさ、ここに関しては私には感じ取れませんでした。意外さ、口の中に残る幕引きです。結局、救おうとした霊は消滅させられ、きっかけを作った主
513	地域猫	セニエ/エデル	一般審査員	16	10	5	5	5	人公は 41 切ない 瀉血ダ 甲冑 ラストが 甲冑 でも少	:それを背負っていきていかないといけない。誰が悪いわけでも無いのに。 !これは切ない!
513	地域猫	セニエ/エデル	一般審査員J	15	14	16	12	16	いつも 感謝す 見えるの だった。 また、。 また、。	はお願い事をしないって言われることと通ずるものがあると思います。 ありがとうございます。って感謝することが大事なのでしょう。 るっていう事はメンタルにも良いそうです。 だけっていうところでナナシロ家のくまこさんを思い浮かべました。 がボタンの掛け違いが時代と霊体の間で生じた悲しいお話として、良いお話 苦干推理小説を思わせるようなストーリー仕立てにしていたことも読者にとっ 白いと思わせる工夫がされていた
No 503	虚無僧	タイトル オカイコ様	評価者 一般審査員A	怖さ 17	鋭さ 17	新しさ 15	ユーモアさ 15	意外さ 16	合計 80 私はこ 神モノ 緯など た。この 描写望は れは普	書評 の手の話を「邪神モノ」と呼んでいるのだが、このコンテストでもかなりこの「邪」は多いので、目新しさはなかった。一方で、オカイコ様(邪神)が作られた経の背景のディテールは他の作品よりも細かく説明されており、説得力もあっり部分が「鋭さ」への加点につながった。また、直接の加点対象ではないが、いうまさも説得力ある説明を裏で支えているように感じた。いつの時代も人間のに尽きることがなく、邪神に縋ってでもその欲望を満たしたいものなのだろう。こに遍的な真理の一つなのかもしれず、故に、こう言った話が多いのかもしれなが同じ様な話を求めるのは、そこにある種の重要な真実が潜んでいるから
	虚無僧	オカイコ様	一般審査員B	15	12	12	10	10	だ。だ。 ある。 59 昔の屋 ろいろ カのあ 作られ 夫なの いくらし	が同じれな品を求めるのは、てこにのる権の主要な具美が溶んでいるからが、多いということは、それだけありきたりで、陳腐になりやすいということでも 敷にありそうな一族繁栄のための神様を祀る話ですね。似たような話しはい 聞きましたが四肢や頭を取られて繁栄する感じのやつは初めてですね。強い る呪物はそれだけ怨念が込められてると思うのでものすごく残忍な事をして た物だと伝わりました。話に戻ると最終的にそのものや人から離れたら大丈 がちょっとあっさり解決しすぎて物足りない感じでした。最後はちょっと、しつこ がが丁度いいと思いますよ。
	虚無僧	オカイコ様	一般審查員D	17	17	15	15	16	いまし、 すくわい んの外 (カナキ 上げると たこまに て願い	たが、ジェットコースターのように一気に読めてしまいました。それほど読みやかりやすい文章、構成で、万人向けの素晴らしい作品だと思います。カナちゃ親がオカイコ様に侵食されていく表現が秀逸でした。川でオカイコ様を探す場特に気持ち悪くて恐ろしかったです。カナちゃんとお母さんが隣町のお兄様にちゃんのおじさん)に引き取られて行った後、キコちゃんのお祖父さんが空を見シーンも良かった。人間の欲が引き起こした怪異が悲しくもあり、平和が訪れへの安堵感もあり、怪異が終わったことを感じることができました。 に伝わる禁忌の存在、というのは個人的とても好きです。決まった手順に則っを託し、対価として差し出すものがあるというある種呪いのようなものが引き
503	虚無僧	オカイコ様	一般審査員E	13	13	12	15	13	それかす。 66 この怪でした。 カイコ村 代々の広 安が広 引き立	ている家に生まれた子どもが不憫に思えてなりません。願掛けをした当人はら逃れる術がない、という教いのなさが闇深さを出していてとても良かったで談は、身近な人の狂気と家に伝わる因果が絡み合う、スケールの大きい物語。子どもの視点で始まる何気ない日常が、いつのまにか暴力や死、そして"オ策"という奇妙な存在に繋がっていく展開が見事です。 「家系に影響する「子どもの魂を宿す木像」という設定も独特で、じわじわと不がっていく感覚があります。途中のユーモアや日常描写が、かえって恐怖をてているのも上手いです。最後の静かな現実への戻り方も印象的で、読後に韻が残る、完成度の高い怪談だと思いました。
503	虚無僧	オカイコ様	一般審査員F	18	17	16	16	16	83 福の神 手程とを 犠キない ど、人人 どん どん て チレ けれ ど	環が残る、无成反の高い住談だことがなした。 は、と聞けば、誰でも欲しいと思ってしまうかもしれないけれど、その正体は首と切り落とされた子供の胴体を模した木製の像だという。孤児や捨て子の命をし、その魂を器に移して欲張りなカミサマを作るといった残酷な一種の呪物のものだ。カミサマの欲がどんどん増して家は豊かになるのかもしれないけれ間の方も願い事をしてはいけない、と言われていても、やはり欲というものはん大きくなってしまうものなのかもしれない。でも、願いが叶ったとて、代償としや頭が取られ、最終的には命を奪われてしまっては元も子もないと思うのだ。それも全てはそう仕向けられるような呪いなのかもしれませんね。そう考えいです。
	虚無僧	オカイコ様	一般審査員G	18	17	16	10	10	のの、盤 のの、盤 のの、盤 ボール・ はんかり さい かい にんかり さい の 点が の 急が 飽きず	イトルの蚕と聞いて、なんとなく手足のない体のことかなと予想はしていたもここまでの展開になるとは思っておらずとても楽しく読むことが出来ました。正のゆったりとした流れが少し苦手だったのですが、中盤~終盤にかけてテンプしてお話が進んだことがとてもよかったと思います。この緩急がよりお話をすくさせたと思います。内容も分かりやすいので、お話の中で迷子になることませんでした。登場人物が多い方だと思うのですが、それでも各々の動きがりしていてごちゃついていないので、分かりにくくなることもなく読めました。こで個人的に高評価につながっています。 に読める、文章構成が上手いなと感じました。怖さ、これはもう主人公にじわ自り来る「オカイコ様」の様子が不気味で気持ち悪く、怖かったです。鋭さ、張
503	虚無僧	オカイコ様	一般審査員	10	5	5	5	5	リ詰めを 気がし ちゃい。 を りに 財 のに 取 で て 好き	た緊張感の中にもメリハリがあり、かと言って大袈裟過ぎず、研ぎ澄まされた感じました。新しさ、何かを生贄にして御利益を得る、これは古典的かなと言うたのでである。 これは古典的かなと言うたのでである。 これは古典的かなと言うない。 一次のでは、 これで見るとやはりではあるので、この評価となりました。 意外さ、 う一ん、 上手くまとまってはいが、 意外な展開があったかと言うと?です。 強いて言うなら、 カナちゃんも最終かった点でしょうか。 よって家が栄えるが決まり事を破ると身を滅ぼす系のお話は読み応えがあっです。
									そんな明れには経発を表している。そのでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本の	り人生において何が大切なのか見誤ると大変なことになりますね。 教訓を含んだお話ですね。 作ろうとは思わないし商売をやっている訳でもないどこにでもある家庭にいる : ! ! !世界をのぞき見するような冥い楽しみがあります。 良いです。 * 情報でするかな?と思うところはありましたが入力ミスだと思います。 * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
503	虚無僧	オカイコ様	一般審査員J	15	16	15	12	15	とはい たら どうし。 73 地方な 一方でた ボる人	で予算が掛かるからと削られちゃうとガッカリするところですね! えそんな呪物を目の前に出されて家で祀れば大金持ちになれるって言われ としょう? らではの因習の怖さがあって、面白かった 、完全の吞まれてしまった場合の代償の重さが命というのが非常に重いと は、何故か、自分は特別だから大丈夫というのを思い込んでしまうのではな 改めて感じる教訓のような話だと思った
No 505	投稿者 たいまい おおま おおま おおま と おおま こと	タイトル この子の七つのお祝い に	合計 評価者 一般審査員A	159 怖さ 17	150 鋭さ 18	135 新しさ 18	133 ユーモアさ 16	137 意外さ 17	しで、 にい話 シーン い話の なー、 っ	書評 しからして怖そうだったので恐る恐る読み始めた。そしたら意外と軽妙な出だ話にもスッと入っていけた。だんだん読み進めるうちに、怖い話というよりも、悲なんじゃないかと思うようになった。最後に赤ん坊のだりを読んで、冒頭のとつながり、やっぱり怖い話なのかと思ったが、読後感はそんなに悪くなく、いような気もした。なんか最後の方は達観してきて、みんな幸せになってほしいなんてありきたりなことしか考えられなくなっていた。軽い感じだが、描写は結く、読みごたえがあったのだろう。
	龍神まこと	この子の七つのお祝い に この子の七つのお祝い に	一般審査員B	14	13	13		12	64 山の土 て山の んだろ のによ た。 90 とても のは、 と人の げられ	地を開発する為の地鎮祭みたいな儀式を男にさせた話ですかね。男を使っ神を鎮めるのはわかるんですが山の中に建てたアパートはどうやって建てたうと疑問に思ってしまいました。作業をしようとすると死んだり事故したりするく建てれたなと思ったんですがいろいろ手直しをした方がいい話だと感じましましていお話でした。この話を表現するにあたり、日記のように日付で区切った非常に合っていると思いました。作者の方のセンスの良さが感じられます。神念が混じり合って別のものになると言う発想が、素晴らしいと思いました。虐た女たちの暴行シーンは痛々しかったですが、この作品には必要だったので
505	龍神まこと	この子の七つのお祝いに	一般審査員D	17	12	16	17	15	ら、と、 題名の 子とか 77 感覚的 何かを ました。 れば途	a。なぜ神と融合するほどの念を持ったのか、ここまで残酷なことをされたのな納得ができました。1番気になったのは、主人公のもとにやってきた子供・・・)通り、彼は7歳になるまで赤子を育てるのでしょうか。子供は7歳までは神のいますが、人間として生きる前に神に返してしまうのでしょうか。続編ができてしくないエンディングですね。 な文章が多く、理解が追い付かない箇所がありました。考える、理解するより感じて欲しい、という意図かもしれませんが好みは分かれる書き方かなと感じ。最終的に某掲示板の書き込みを思わせるような締め方でしたが、それであまりでとった。全人のでとても気味が悪かったです。
	龍神まこと	この子の七つのお祝いに	一般審査員E	14	14	13	12	12	65 現代的 借金で 土してち 後き り、物割	がたいたことでは水があったです。 かな語り口と民俗的な怖さがうまく混ざった、読み応えのある長篇怪談でした。 小人生のどん底にいた男が、「一週間の泊まり」という謎めいた仕事を通して、 にびりついた怨念と向き合っていく展開がとても引き込まれます。暴力や死、 性的な狂気が重なっていく描写は生々しく、それがいつの間にか"神にされた"の悲しみとして浮かび上がるのが印象的でした。 ・、語り手が"見ているだけ"から一歩踏み出し、暴力の連鎖に自らの痛みで向 場面は胸に残ります。最後の「赤ん坊の声」で、呪いと愛情の境界が曖昧にな 吾がぐるりと輪を描くように終わる構成もとても美しかったです。 ・裏で女、子供が犠牲になっていく、そんな人間の闇の部分に怖さを感じまし
	龍神まこと	この子の七つのお祝い	一般審査員F	18	17	17		16	た。ままと、た。 にた、 た。 た。 た。 た。 た。 た。 た。 た。 た。 た。 た。 た。 た。	るでモノのように扱われ、暴行され、殺されて土地に縛られてしまった女性達来を奪われてしまった子供達。そんな女性や子供達の恨み、悲しみの念が人って作り出された土地の神として主さんの前に現れ、主さんと交わる事で解たという事なのだろうけれど、それで終わりではなかった。主さんに聞こえる「のハイハイする気配や鳴き声、そして「おっとう」と呼ぶ声。土地に埋められば達の魂が山神様によって主さんの子供として託されたのでしょうか。子供達かるのならいいけれど、主さんとしては複雑ですね。単なる土地の記憶に留主さんと関わっていくところが面白いと思いました。
									キコに言いなとましているとました。キャで関係の時に	がはっきりしているのでお話もわかりやすく頭に入ってきます。特に最後のカついては古のインターネットを感じ、洒落怖感が出て良かったです。ただ、強うと書き込み感を出すのであればもう少しあからさまに出しても良かったのかいます。人によっては最後のカキコ要素がとってつけたように感じてしまうと思た。冒頭に一言でいいので「話を聞いてほしい」というような記述があるだけでと思います。お話の内容はまとまりがあって良かったと思います。はっきりしたクターなのに素性がわからないという字崎、お金にだらしないけど人としてそこがってない主人公の人間関係が、雇い主と雇われ人柱というわかりやすい人なのも良かったです。子供を返すということは、またあの土地に戻るのか、そには何が起きてしまうのか。半分神様だとしたら、その子は丁重に扱わないとと
	龍神まこと	この子の七つのお祝いに	一般審查員H	10	11	9	8	10	んでも 途半端 もそこ パンチ を追い感 氏でいる に関いる	ないことが起きてしまうんじゃなか?という続編が気になる終わりだけど、中ではない、このバランスも良かったです。 みて思ったんですが、物語の入りが某怪談師さんの話と被っていて、どうしてが引っかかります。 怖さ、起きてる事象は一定の怖さはありますが、それ程の力は感じません。予定調和と言いますか。鋭さ、もう一歩踏み込んで主人公詰める展開が欲しかったです。 新しさ、ここは、何処かで読んだ、聞いた話。 は、がどうにも拭えません。 ユーモアさも、特には。 宇崎の人物像をより胡散臭いにしてみても良かったかもしれません。 意外さ、結末が何となく予想できてとめこちらの評価となりました。全体的にとっ散らかっていると感じました。
9U5 	, -	に	ax 毌宜員	16	5	5	5	5	所謂「指持 身の 所 所 り り り り り り り り り り り り り り り り り	出る」物件にお泊りする仕事のお話はSNSで読んだことがあります。 ち崩してもやりたくはないですね! に相談した方が良いです。絶対に。 宿泊して「見せられている」ところを読んでいたら胃酸がジュッと出て喉の奥を した。 がら薬を飲みました。 」太さんが持っている話並みのしんどさです。 は実話ベースなのでとんでもないですね!
	龍神まこと	この子の七つのお祝いに	一般審査員」	156	140	140	136	17	その後 教いが 暴力はの 77 理由の の儀式 最後の とが、 708	んは7年間確実に子育てさせられます。 どうなるんでしょうか。 無さそう。でも救われて欲しい。 よくないと思いました。 わからない話であったが、土地に染み付いた記憶や念を払うための何らか だったのだったと思った 子供は何だったのかがわからないことと主人公が受け入れてしまっているこ 色んな意味で怖さを際立たせた
	投稿者 あきら	タイトル 異国の村の神について 異国の村の神について	評価者 一般審査員A 一般審査員B	怖さ 17 13	鋭さ 19	新しさ 19 10	ユーモアさ 18	意外さ 17 12	合計 90 非常に コレクシ いった する欠 私が言う は思教の るとい	・ 神様の話でしたが蓋をあけたらその部族の村に迷い込んだ人間を憑代にす うか生贄にするというか、すごく迷惑な話でした。オチは実は主人公も神にさ
	あきら	異国の村の神について	一般審査員C	15	15	18	18	18	せられ 84 オカル 末まで が ら ら した。 し しまい 84 新しい	ていたって方のオチでも良かったんじゃないでしょうか。話しが広がりますし。 ティックではあるものの、全体的にユーモアが溢れるこの作品、好きです。結 明るいのは潔いと思いました。設定が非常に面白い、神だと思わされたもの 、人間だったのとは!「マツヤ」という名字が彼を救ったというのも、非常に面 たです。神と思わされたものが苦しむ場面も、不気味で苦しげで、その辛さが てきました。「彼」が苦しんでいる原因が他の呪物というのも、笑ってしまいま まました。「彼」が苦しんでいる原因が他の呪物というのも、笑ってしまいま ました。文章の表現に過不足なく、非常にレベルの高い作品だと思います。 展開でとても興味深かったです。海外の呪物に日本のお祓いは果たして効果
	あきら	異国の村の神について	一般審査員E	12	11	10	11	11	がある。 切にです してくす 55 異国の 村に括か "村に没 にはゾ	展開でどても興味深かつだです。海外の呪物に日本のお飯いは果だして効果のだろうか、と単純な発想にいくのではなど形を変えて本人なりのやり方で大っる、という発想が面白い。鋼のメンタルを持っている人間が最強。それを証明しるような作品でとても面白かったです。 風景や信仰の描写が独特で、読んでいてじわじわ不安になる怪談でした。 はわる神の話が、ただの風習や儀式ではなく、「異国の理」が支配する世界としれていて不気味です。 とい込んだ魚=余所者"という発想が印象的で、終盤でそれが反転する展開ッとしました。 物たちの軽い調子の会話があるぶん、後半の静かな恐怖が際立っていま
516	あきら	異国の村の神について	一般審査員F	17	17	18	17	17	す。 理理ッ 86 お話を行 中村、本は もれは に本い たれは けれれれ	きない信仰の中に巻き込まれていく恐ろしさと、人間の好奇心の怖さがうまくった作品でした。 読んでいて、主さんの友人の松矢のイメージがどうしても呪物コレクターの田 さんと重なって、何となく可笑しく、楽しく読ませていただきました。異国の漁 さわる言い伝え、『大洪水や水害を告げるために現れる魚の姿をした神』。で 当は黒い魚の像の中に布の切れ端に名前を書いたものが入れられてあって、 村に来た異国の旅人の名前で、ある種の呪物となっていた。それは怖いです 身の知らないところで勝手に御神体にされ、訳も分からず苦しむ日々を送らな ならないなんて。松矢はたまたま名前の事もあり、運が良かったのでしょう
516	あきら	異国の村の神について	一般審査員G	17	15	17	20	18	ければ ね。オー 87 純粋 純粋 じ い ら い ら な い ら さ こ ん い る た る に る た る ら ら く と っ く ら く ら く ら く ら く ら く ら く ら く ら く ら く	ならないなんて。松矢はたまたま名前の事もあり、運が良かったのでしょう バーの魂が教われる事を祈りたいです。 面白かったです。禍々しいお話なのに、登場人物のキャラクターによって大いでする。 ・やすく、また理解しやすかったですね。「迷い込んだ魚」の時点で隠語なんいかと思っては居たのですが、まさか名前を取られただけでそこまでの苦行をれるとは…。【マツヤ】について、実際にヒンドゥー教ではビシュヌの化身としてるということを調べました。さらにサンスクリット語では魚の意味もあるという、ら着想を得てこのお話につながったとするとすごい構成力だと思います。松矢調々とした感じと、主人公の振り回されっぷりがい地いいですね。また、水槽満ちる肉塊とその絶叫のシーンはとても禍々しくてゾクゾクしました。松矢さん
	あきら	異国の村の神について	一般審查員H	10	10	11	9	10	シリー 50 怖さ、5 が今り 場、の友で、くった 全も、1 45 ローカ	ズとして読んでみたいくらいおもしろかったです。 気持ち悪さはありますが、怖さはあまり感じませんでした。呪物の正体、本質 とつ怖さに繋がっていません。鋭さ、ここも説明的すぎるかな。メリハリ、山 いと思います。新しさ、呪物そのものは新しい表現も見受けられますが、主人 、人が外国で呪物をもらってくる。やがて、奇妙な事が起きる。呪物系あるある 体的に見ると新しいとまでは言えないかと。ユーモアさ、ここはすみませんが な矢がもっと突き抜けてぶっ飛んだ人だと面白かったかも。意外さ、呪物の登 起こる事象も、結末も、意外性は感じられませんでした。 ルの神様と鉄のメンタルの組み合わせは相性が良いですね!
	**	per -							松矢は 火物の 水物の 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き	田中トシか!と思いました。 暮らすという事は尋常ならやりたくはない事です。 呪物と暮らすことを選んだ動機とは何だろうかと も分からないし推測もできないのでまあいいかーと おります。 に使われた人は苦しむのが胸糞悪いですが呪物ってきっと う物なのでしょうね。 ても自分がそのような目に合わないよう気を付けようと した。
No	あきら 投稿者 うのたろう	異国の村の神について タイトル 背景、愛するきみへ	一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A	10 142 怖さ 17	10 129 鋭さ 17	10 136 新しさ 17	10 142 ユーモアさ 18	10 140 意外さ 18	50 全体的 689 合計 87 狂気的 ちょつし 気じゃっ だ、もっ しても、	書評 は話で、私は結構好きです。また一人ストーキングされるのか、と思うと、に面白くも感じる。これからも同じことを繰り返していくのだろうか。 ていうか浮ね一だろw。 あと、家賃私え やw。 色々と考える面白い怪談だった。まあ、たっと怖く語ることはできたように思う。ユーモアさの点数はこれ以上伸びないに怖さはまだ伸びしろがあるという、ある意味珍しい怪談。話自体の構成は短
	うのたろう	背景、愛するきみへ	一般審査員B	12	11	11	10	10	編に近 54 ストース よくなした じがして のター 手さいかの のをめ	く、そこに「長編らしさ」への伸びしろを感じた。 カー目線での話ですね。なんとなく途中からわかってきて最後に答えみたいな あ流れの話でした。違っていたら申し訳ないんですがAIで作った話みたいな感 たのは私だけでしょうか? う結末でしたか。音を出さないようにせざるを得ないですね。究極の人怖。次 ゲットが決まったことによって、今まで執着していた彼女の元から去る。身勝 吐き気すら覚えます。モノローグの本人が実は加害者であったことを最後まで ない手法は、インパクトがあり効果的だと思いました。面白かったです。最後 さんのくだりについては、こんなに文字数を取らなくても良かったような気がし
515	うのたろう	背景、愛するきみへ	一般審査員D	15	12	15	13	11	ま氏は 独立中で 強盗かなの 説のあから あから	大家さんがやってきて部屋から騒音がすると言われたこと、できたばかりの彼 絡をとりあうところ、この辺りがさらっと書かれているだけだと、ストーカー男の か不気味さが引きたったのではないかと思いました。 オチが完全に読めてしまいました。読みながら感じる違和感、というものでは 完全な矛盾が生じるのでその先の展開は読めてしまいました。有名な都市伝 マージュでも良いと思いますが、それであれば創作怪談としてもっと読み応え 開が欲しかったです。一年間天井裏から見ているほど執着があった理由も分 いし、臆病なわりに次のターゲットに軽々と乗り換えて移動する行動力の辻褄 ません。登場人物のキャラクターに一貫性があるともっと不気味な話になると
	うのたろう	背景、愛するきみへ	一般審査員E	11	11	11	12	11	56 議な感 リア 休さ 常に戻 91 この結 にさらに 姫のお	いて、ストーカー目線だと人ってこんな感情の混ざり方をするのかと不思覚になりました。怒りや悲しみ、愛情、執着がごちゃまぜになった心理描写がでゾクゾクする一方、日常の細かい行動や部屋の描写の丁寧さが妙に生々したと同時にどこか興味深くも感じました。最後に彼女が何も気づかず平然と日る場面には、ぞっとするブラックユーモアがあって印象的でした。末は想定外でした。お見事、という感じです。男はストーカーで、まさか天井裏着いていたとは!しかも一年間も…。まあ、でも、それなら極力音を立てない神経質になるのも頷ける。そうやって、天井裏に潜み、部屋の住人である橋優屋に隠しカメラを設置し、日々監視していたんですね。めちゃくちゃ怖いじゃな
515	うのたろう	背景、愛するきみへ	一般審査員G	10	5	15	10	10	いですしてできた。 り、たった。 50 絶対頭 カーとい せん。	か。そして、普通に出来た彼氏を部屋に連れてきてイチャイチャした優姫に対気したとか…。ストーカーの妄想って怖いですね。まあ、刃傷沙汰にならなのはまだ救いか?そして、次にスーパーの店員の近藤さんがターゲットになみ着かれるんだな、と思うとまたじわじわと怖くなります。終合的に高評価に作品です。タイトルの背景―というのが、また洒落が効いていていいですね。 はおかしいことになる話だと思って読んだら頭おかしい人の話でした。ストーしての挙動と考えると、一挙手一投足が気持ち悪く感じますね。ただ、これはことではありますが、一つの長編として描くには視点が少なすぎたかもしれま端的に述べてしまうと、お話が間延びしているように感じます。また、男の主観
515	うのたろう	背景、愛するきみへ	一般審査員H	18	18	17	15	17	で語った女 かたである。 あえて。 85 いさ、こ が、こ が、こ が、こ が、こ が、こ が、こ が、こ が、こ が、こ が	ている部分とそうでない部分が入り乱れているので、その点が少し読みにくです。最初から男の主観で描いてしまった方がわかりやすいと思います。最大性視点は段落を分けてしっかり書き分ければ混ざることもないと思います。本当にもったいない部分です。拝啓と背景が誤変換していると思われます。あとしたら申し訳ないのですが、今回は誤変換と判断して減点とさせて頂きまこっわ!タイトル、そういう意味だったんですね~。斜め上行く展開でした。怖いはもう終盤の展開につきます。やられた!という感じです。心底ソッとしましき、主人公の「男」視点で物語が進行しますが、どう展開するのか予想出来張感が続きます。新しさ、主人公がそもそもストーカーだった、という事もです
515	うのたろう	背景、愛するきみへ	一般審査員	15	7	5	5	5	ず、 が、 が、 りカー さ、当な で次の 季 うまい、 今井大	張感が続きます。新しさ、主人公がそもそもストーカーだった、という事もです 怖、なのか本当に生きている人間なのか?どっちにも取れるかな?という終 です。ユーモアさ、彼女に浮気された三十路過ぎの男、からの一転して、ス ーかい!というオチ。笑っちゃいました。まぁ、ブラックではありますが。意外 切の主人公の異様なまでの音に対しての神経質振りに何が起こったのか !像を巡らしましたが、まさか、「加害者」側だったとは、しかも家を出る理由が ターゲットを見つけた」から。どうか、あのお姉さんが無事でありますように。 背景を掛けたタイトルでしょうか! こと内容を表してはいますが滑ってるんじゃないかしら。 ・輔のヒルみたいな話なんじゃないかなと推測しながら
515	うのたろう	背景、愛するきみへ	一般審査員J	17	15	17	18	15	読みま ノゾキ: そんと にほんと ん。 な一に裏 れて、「序盤か	した。 をするヒルって感じでキショいです。 男性の描写がまたしっかりしていて更にキショさが倍増しています。 腹立つけど女の子はセキュリティのしっかりとした物件に住まないといけませ ーが一愛してるだ! に住んでいるストーカー目線での話だったというのを中盤くらいで気づかせら やばいなと思わせられた いの意外な展開と後半に向かってどうなっていくのかという興味深い話でとて
			合計	148	129	141	134	134		らの意外な展開と後半に向かってどうなっていくのかという興味深い話でとて構成だった

